

【日本語文章の作り方で翻訳精度は決まる】

アーケテックコム株式会社で、  
マニュアル作成と技術翻訳を行って  
います。豊原 信です。



ウェブサイト：  
<http://arc-tec-com.com>

Tel : 050-6864-6201  
Fax : 050-6864-6202  
E-mail : m.toyohara@arcteccom.jp

翻訳に適した日本語文章を  
作成しましょう

こんにちは。

今回は、営業担当者が商品を販売する時に活用するハンドブックを作成した時のお話です。それと、恒例の『よくなれメッセージ』を紹介します。

**初めての試み**

今回は、ハンドブックを初めて草稿（粗原稿）から作成しました。弊社は、元々技術資料の翻訳と商品の取扱説明書やサービスマニュアル作成を主に行っています。受注した以上、どのように作り上げるかが問題です。まずはクライアント様の関連する資料を掻き集め分析し、企画案の叩き台を作りました。

**原稿作成のライターがいない**

次にライターの選別です。第一に商品の特長や技術内容が分かる。次に販売活動の基になる情報にストーリー付けして草稿（粗原稿）作成ができる。このようなスキルのあるライターがなかなかいま

せん。通常取扱説明書やサービスマニュアルの原稿作成と比べると難易度が高いです。最終的には、独立して30年以上のキャリアを持つライターと共同で作業を行いました。

**読み手の立場でライティング**

ライターと共同で企画案を作成しました。そしてクライアント様にも作業に参加していただき、記載する内容を設定しました。文章のスタイルは、内容をそのままセールストークに応用できるように作成しました。

**翻訳リスク前提の企画案**

次に、日本語から直接、英語を仲介せずに他の欧州言語に翻訳する方法を選択しました。この方法は作業期間を短くできます。さらにコストを低減する良い方法ですが、翻訳品質が安定しないリスクがあります。

**翻訳用の日本語の作成**

主語・述語・目的語を明確にし、

決して“あれ”“それ”等の代名詞や抽象的な表記はしない。そして、行間を読ませるような文章にしない。一文一義を徹底して、文章を45文字以内にまとめる。という基準を設け草稿（粗原稿）を作成しました。

その結果、翻訳作業を非常にスムーズに進めることができました。

**翻訳結果に大満足**

地域性に特長のある欧州言語への翻訳でしたが、現地での校正評価も高く一安心です。

近年は翻訳言語のマニュアル作成の効率アップがとても必要になってきています。

草稿（粗原稿）の段階から英語で作成することも可能です。（弊社ではクライアント様のご要望に沿った対応が可能です。）しかし、まだまだ日本語での作成が主流です。

**翻訳前の日本語チェック**

翻訳前には、必ず日本語のチェックをお勧めします。もし、1つの

文章に主語が2つあるような文章や、意味が2つ以上に解釈できる場合は、見直しが必要です。ここで手を抜くと海外の市場のお客様からお叱りを受けます。要注意です。

\*\*\*\*\*  
今月の応援メッセージです。

### 「よくなれメッセージ」

人材が欲しい  
素晴らしい人材が欲しい  
そうすれば、もっともっと活躍できる会社になるのに……

そのためには、素晴らしい人材が、入りたいという会社になるのです

素晴らしい人材が、入りたいという会社は、どんな会社でしょうか？

給料が素晴らしい、会社のブランドがある、福利厚生が充実している、休日が多い……

あらま、そんなこと、どれも無い……

だったら、  
「自分の人生を掛けてもいい」と思ってもらえる、夢がある会社にするのです  
「自分の人生を掛けてもいい」と

思ってもらえる人に、あなたがなるのです

「自分の人生を掛けてもいい」と思ってもらえる、変化に富んだ会社(勢いのある会社)にするのです

「自分の人生を掛けてもいい」と思ってもらえるほど、その人の人生を深く考えるあなたになるのです

きれい事ではありません、貪欲にやるのです

素晴らしい人材を集めることを、誰よりも強く強く強く、思うのです  
夢中になるほど思い続けるのです

素晴らしい人材は、行く先を探しています

その人を、自分の思いで呼び寄せるのです  
だから、迷いや、遠慮は一切あってはなりません

強い気持ちで、自信を持って、呼び寄せるのです

あなたが、あなた自身に惚れて、自分が自分自身に掛けてもいいと思えるまで、がんばれ！

あなたなら出来る！

\*\*\*\*\*

このメッセージにある素晴らしい人材が、惚れる「自分」になるにはどうするか。「心を高める」

方法しかないと言われていました。心を高めながら、これはという人材は自ら探しに行き、口説きます。待っていても来ません。これも【考え方】ですね。

【考え方】と【熱意】でもって人材を探します。

京セラ創業者の稲盛和夫氏が教えられている次の公式に当てはまりますね。

【人生の成果／やり遂げる事の成果】 = 【考え方 (-100~100)】 × 【熱意 (0~100)】 × 【能力 (0~100)】

豊原 信